

1. 評価報告概要表

作成日 平成 年 月 日

【評価実施概要】

事業所番号	1072200247
法人名	特定非営利活動法人 じゃんけんぽん
事業所名	グループホーム じゃんけんぽん 伊香保
所在地	渋川市伊香保町伊香保369-6 (電話) 0279-30-4177

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年12月2日

【情報提供票より】(平成20年 11月 8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 9月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 6人, 非常勤 4人	常勤換算 6.5人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨及び木造スレート葺き 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	1,350(日額)	円	その他の経費(月額)	熱水費 600円/日・家電持込費用100円/		
敷金	無					
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無			
食材料費	朝食	200	円	昼食	250	円
	夕食	250	円	おやつ	50	円
	又は1日 750円					

(4) 利用者の概要(11月 8日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	0名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 88歳	最低	74歳	最高	102歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	原沢医院・太田歯科医院(訪問歯科)・虹 訪問看護ステーション・山懸薬局・三剛歯科医
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

伊香保温泉街に近く2階建てのペンションを改装した事業所は、民家に囲まれ窓から子持山や小野子山が眺められ、心和む静かな環境の中にある。地域の祭りや新年会に参加し、近くの商店でおやつや日用品の買い物をするなど町内との付き合いを大切に、徘徊している入居者を近所の人が送って来るなど町内の一員として日々暮らしている。家族と担当者・ケアマネージャーが毎月話し合いの場を設け、希望等を「面談シート」に記録し介護計画に反映している。また、面会や利用料を持参して頂いた際、「じゃんけんぽん伊香保新聞」の他、健康状態や生活状況を記載した「近況報告書」及び入居者が行事に参加している顔写真が印刷された「個人カレンダー」を毎月家族に報告し、家族との絆や信頼関係を大切にされた支援に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価を活かして、運営推進会議の家族の出席については家族代表を1名から3名に増やし、市町村との連携については公民館主催の認知症サポート講座に職員を派遣し、重度化や終末期に向けた方針の共有については「重度化した場合における対応に係る指針」を作成するなど具体的な取り組みをしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、項目を分担し全職員で記入し、管理者が取りまとめている。自己評価の取り組みとして、家族との面会時間をいま以上に持つよう心がけることが話し合われている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議を隔月毎に開催し、毎回テーマを決め意見交換を行っている。構成員である医師、薬剤師、商店主等は日々の業務により出席は難しい状況にあり、それぞれの立場から意見がいただけるよう積極的に参加してもらえるような働きかけに期待する。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会時や毎月の利用料を持参して頂いた際に、ホームたより「じゃんけんぽん新聞」の他、月間の生活状況や健康状態を記載した「近況報告書」、入居者の顔写真が印刷された「個人カレンダー」を渡し、介護日誌を閲覧してもらい意見や要望をお聞きするなど話しやすい雰囲気作りに努めている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、道路清掃に参加したり、町内の葬儀に参列したり、地域の一人としての交流に努めている。また、町民運動会には入居者と職員が参加したり、どんど焼き、小学校・幼稚園の運動会の見学をしたり、日用品の買い物やゴミ出し等で近所の人達と話しをしている。日頃のつきあいから、町内の人が徘徊している入居者を連れてきたり、電話で連絡があるなど地域の協力を得ている。</p>
重点項目④	

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人が運営する施設に共通する理念「障害者が何らかのハンディを背負いながら地域で住み続ける事ができ、……」を受け、「あなたの自由な生活を私達は思いやりを持って支援します」という、ホーム独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、理念を理解し、理念に基づいて、地域の人達との絆を大切に、入居者の安全を確保しつつ精神的肉体的に自由な生活が送れるよう日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、道路清掃に参加したり、町内の葬儀に参列したり、地域の一員としての交流に努めている。また、町民運動会には入居者と職員が参加したり、どんど焼き、小学校・幼稚園の運動会の見学をしたり、日用品の買い物やゴミ出し等で近所の人達と話しをしている。日頃のつきあいから、町内の人が徘徊している入居者を連れてきたり、電話で連絡があるなど地域の協力を得ている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、項目を分担し全職員で記入し、管理者が取りまとめている。自己評価として、面会時に、今以上に家族との話し合いの時間を持つよう心がけることが話し合われている。外部評価の改善課題は、運営推進会議に家族の出席を促すこと、市町村との連携、重度化や終末期に向けた方針の共有について、職員会議で話し合い改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月毎に開催し、事業実績や行事開催予定等を報告し、毎回テーマを決め意見交換を行っている。構成員は家族代表1名から3名に増やし毎回参加を頂いているが、その他の構成員は医師・薬剤師・商店主等で各々の業務のため出席が難しい状況にある。	○	運営推進会議の構成員には、それぞれの立場から意見がいただけるよう、積極的に参加してもらえよう働きかけに期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	公民館主催の認知症サポート講座の講師として職員を派遣し、職員で劇団を結成し認知症に関する寸劇を各地で公演している。また、ホームの入居者が無断外出した時は、町の有線放送で徘徊者情報を流してくれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	行事の様子等を掲載した「じゃんけんぼん伊香保新聞」を発行している。毎月の利用料は持参が原則であり、その際に入居者が行事に参加している顔写真が印刷された「個人カレンダー」を毎月お渡しし、月間の生活状況や健康状態を記載した近況報告書を交付し知らせている。金銭管理は立替金処理し、出納帳にレシートを添付し毎月精算している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の利用料を持参した際、担当職員・ケアマネジャー・家族の話し合いの場を設け、受診希望等を「面談シート」に記録している。また、近況報告書に意見要望苦情欄を設けると共に、面会時に介護日誌を閲覧してもらい意見や要望を伺うなど話しやすい雰囲気作りに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動は行わず、職員の離職を防ぐため職場環境の整備に力を注いでいる。新規採用職員には職場研修を行うと共に、夜勤は1ヶ月間先輩職員との二人体制を組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修センターで新人研修等を行うと共に職場研修にも力を注いでいる。また、経験年数に応じ全職員が外部研修を受講できるようにしている。受講後は報告書を作成し、発表するなど職員で共有し、資質向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小規模多機能ホーム・グループホーム大会ではほぼ毎年事例発表を行い、連絡協議会主催の各種研修や諸会議に参加したり、レベルアップ交換研修に職員を派遣する等サービスの質の向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居条件等の電話相談を受けた後に、本人や家族にホーム見学をしてもらい、入居者とお茶を飲み時間を共にし日常生活の雰囲気を体験してもらっている。入居後は家族の面会や電話をこまめにお願ひし、職員も声かけを多くするなど一日も早く馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者を家族の一員と思ひ接している。日頃の会話の中で養蚕のことを教えてもらったり、無断外出者と共に歩いたり、一人で部屋に居るのが寂しい入居者には居間にベッドを置き休めるよう配慮する等、喜怒哀楽を共に、支え合う関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で働きかけて、本人の希望等を聞き、面会時に家族の希望等を「面談シート」に記録している。意思表示の困難な入居者には、言動や表情から判断し希望や意向を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントシート、家族の希望等が記載された面談シートや業務日誌を基に、ケアマネージャーと担当職員が話し合い介護計画の素案を作成し、全職員が参加するケアカンファレンスで検討している。家族には面会時や利用料持参の際説明し、確認を頂いている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に見直しを行うと共に、見直し以前に病状や体調に変化があり、支援内容に変更が生じた場合は、医師とも相談しケアカンファレンスで現状に即した計画を作成している。家族に報告し確認してもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算と短期利用共同生活介護の指定を受けている。専門医への通院、投票、墓参り、孫が通う保育園の運動会の見物などの送迎等入居者と家族が安心して暮らし続けられるよう柔軟な対応を心懸けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に馴染みのかかりつけ医を聞き、ホーム協力医による月2回の往診支援を説明し、全入居者が協力医の診察を受けている。緊急時には、夜間でも医師へ連絡し紹介状をもとに家族の希望する病院へ入院している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における対応に係る指針」が作成され、職員の熱意と家族の理解・協力を得て入居者が最後まで自由で穏やかな暮らしをして頂くことを願い、日常の健康管理、看取りに関する考え方等が定められ、家族と合意書を取り交わしている。なお、看取りに関しては入居者の状態の段階に応じ、医療関係者、本人及び家族、ホーム関係者で合意内容を見直すこととしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の記録文書に、他者名が記載される時は特定されないようイニシャルで表記し、排泄誘導や言葉かけ等日々の関わりの中でプライバシーを損ねないよう指導している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来ること・出来ないことに配慮し、食材の下ごしらえやおしぼり配り等入居者との共同作業を通じ、共に歩むケアに取り組んでいる。また、外食メニュー選びや日々の買い物等選択項目が複数有る場合はどれかを選択してもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材業者が作成した献立表を、入居者の希望を取り入れ変更して提供している。食材の下ごしらえ、下膳や食器拭き等を共に行い、入居者と職員が同じ食事を摂り楽しい一時を過ごしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則週4日の入浴であり、夏期は入浴日以外にも希望があれば随時入浴を行っている。また、気の合う入居者同士の入浴や体調に合わせた足湯やシャワー浴を行っている。入浴を拒む入居者には、声かけや時間をずらす等無理のない入浴を勧めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食材の仕込みや皿洗い等の家事に従事しないと落ち着かない入居者、食事時に「頂きます、ご馳走さま」の声かけをする入居者などその人の好みや力量に合った役割を担っている。お祭りやカジカ橋のライトアップ見物、外食行事等を楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩の他、日用品やおやつ・季節の果物を近所の店に買いに行っている。四季を通じ家族も参加する花見やリンゴ狩り等の計画を立てたり、ドライブを兼ねて榛名湖周遊や「あいのやま温泉」への入浴などの外出を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	精神的拘束とならないよう設立当初より玄関や居室に鍵をかけないケアに取り組んでいる。無断外出者には職員が安全を確認し、寄り添って歩くなどの支援をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練や消火訓練を年2回実施し、うち1回は消防署の指導の下に夜間を想定し行っている。避難訓練の際、消防車が来る時は消防訓練のチラシを近所の家に配布するが、災害時の協力は依頼していない。	○	災害時に地域の人々の協力が得られるよう働きかけを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養バランスは、食材配達業者の栄養士の献立表に基づき撰っており、食事や水分の摂取量を介護日誌に記載し情報を職員が共有している。糖尿病の入居者には、協力病院の栄養士にカロリー計算してもらいメニューを変更したり、自ら水分摂取が出来ない入居者には、必要量を確保できるよう支援している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>階段下や廊下にはソファーや椅子が置かれ、休めるようになっている。ペンションのオーナーが描いた絵が随所に飾られたり、季節の花々が活けられている。居間兼食堂にはサンルームを通し冬のやわらかな陽光が注ぎ、加湿器が稼働し、居心地良く過ごせるよう配慮されている。</p>		
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ペンションを改造した居室には、鏡台などの家具、仏壇や父母・配偶者の遺影、家族の写真が飾られている。今後は、親しい入居者同士が居室でお茶を飲むなどの支援をしていくこととしている。</p>		